



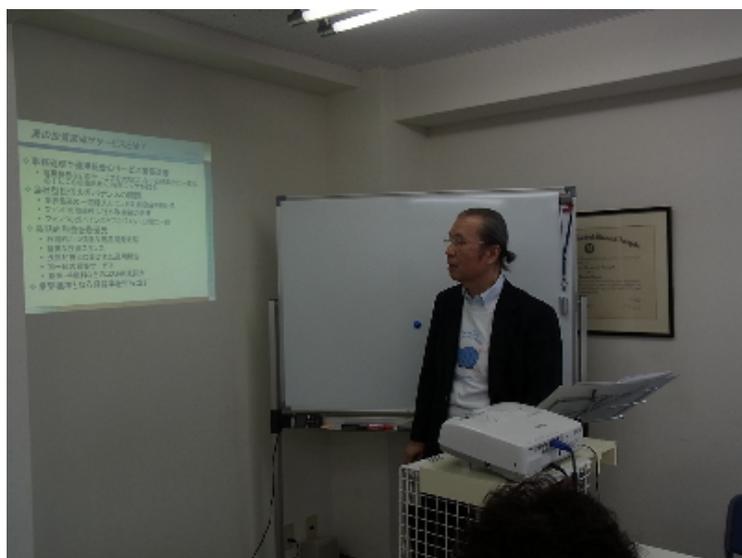
長期投資仲間通信「インベストラ이프」

I-OWA マンスリー・セミナー講演より

名著ヨミトキ、エリス著『キャピタル』

講演: 岡本 和久、レポーター: 川元 由喜子

米国の資産運用会社、キャピタル・グループは日本での知名度はあまり高くありませんが、本当に質のいい運用会社です。この本の著者はチャールズ・エリス、前書きを寄せているのがバートン・マルキールです。興味深いことに、キャピタルの運用はアクティブの典型であるにもかかわらず、インデックス運用信奉の大御所二人が名を連ねているのです。



マルキールは、「低コストのインデックス運用が成功するには効率的市場が必要であり、そのためにはキャピタルのような、質のいいアクティブな運用機関がどうしても欠かせない」と言います。また長期にわたる高いパフォーマンスは、インデックスかアクティブかの問題を越えて、運用会社経営そのものの在り方に関わるとも述べています。

キャピタルは全米 3 本指に入る投信会社で、超一流のアナリストを擁する世界最大の独立系リサーチ会社でもあります。旗艦ファンドはアメリカで 2 番目に古い投資信託で、1933 年設立時に投資していれば、実に約 6300 倍。他の主要ファンドもそれぞれ危機やパニックを乗り越え、長期に安定した高成績を収めています。

その成功の要因の第一は、人事に非常に大きな力点を置いていることです。一貫して高いレベルの採用水準を保ち、粘り強く、一級の人材を採用することにこだわります。そして各個人が最も力を発揮できるよう、組織を作り上げているのです。貢献度に基づいた報酬体系、プロとしての昇進・研修の体系、情報やアイデア共有の仕組み、これらによって、継続的に高い成果を生み出すプロフェッショナル集団が実現しているのです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

運用体制においては、複数マネージャーという大変、特徴的な制度を採用しています。一つのファンドを四等分し、四人のファンドマネージャーが分担して運用を行います。各ファンドの運用成績は、四人の成績の合計となります。この制度は、独創的なアイデアを出せるという専任ファンドマネージャー制の長所を活かしながら、多様なアイデアを取り入れ高度な分散を図るという利点を併せ持ちます。チームプレーを重視し、アナリストの責任の明確化も考慮されています。

特徴的なのは、運用だけではありません。その販売政策がまた優れているのです。重要なのは、顧客に長期保有してもらうこと。そうしてこそ、初めて高いパフォーマンスのメリットが得られるからです。そのために、実際に投信を売る証券会社の営業マンに、長期保有のメリットを売り込むノウハウを提供し、徹底的に支援します。宣伝は全く行わず、相場が上がっている時は業界内でのシェアを下げ、相場が下がっている時にシェアを上げるという方針を一貫して続けます。そうすれば自然に投資家は儲かっていくので、長期で投資を続けていけるのです。

事務処理や運用報告などの顧客サービスも、長期保有を促す要素として重視しています。長期的視点に貫かれたわかりやすい運用報告、業界平均を下回る低い経費率は、顧客の信頼獲得に貢献しています。

講演では、創業者の経歴・経営姿勢や会社の生立ち、人事制度や複数ファンドマネージャー制度の詳細、銘柄選択のスタイルなどについてもお話を伺いました。

(2013年4月に開催されたI-OWA マンスリー・セミナーでの講演内容を要約したものです)